

様式1 令和6年度 山梨県立甲府昭和高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	学校の教育力、組織力のさらなる向上を図りながら、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指す。
-----------	--

山梨県立甲府昭和高等学校校長 加藤 忠

本年度の重点目標	1 生徒の学びに向かう力を引き出しながら、甲府昭和高校Can-doリストに掲げた資質・能力の育成を図る。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くできている。
	2 さわやか教育を実践し、自ら考え行動できる生徒の育成を図る。		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	3 地域や関係機関と連携して、安全で安心して学べる教育環境の構築に取り組む。		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
			D	達成できなかった。(4割以下)		1	できていない。

自己評価				年度末評価(2月17日現在)		
本年度の重点目標				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	①学習意欲の向上を図る。 ②知識や技能を活用して、思考、判断、表現する場面を計画的に授業に取り入れる。 ③学習評価を改善し、評価した結果を積極的に生徒、保護者に通知する。 ④教科「情報」に関連する指導を検証し、全校体制を確立する。	①(1)身に付ける資質能力を明確に示して授業を行う。 ②(1)ICT、1人1台端末を日常的に活用し、授業改善を行う。 ②(1)授業において主体性を伸長する探究活動等を設定する。 ②(2)授業において適切な言語活動等により表現力の伸長を図る。 ③(1)7月、11月、3月の教育課程委員会で評価結果の分析と検証を行う。 ③(2)評価結果についての説明を、学期末に生徒・保護者に通知する。 ④(1)情報Ⅰの学習内容や指導方法について検証し改善する。 ④(2)ワーキング・グループを年4回実施し、指導と学習の状況について点検、改善を行う。	・相互授業参観、生徒授業アンケート ・(1)教育課程委員会の分析と検証を行う。 ・(2)通知資料 ・生徒・保護者アンケート ・(1)大学入学共通テスト、模擬試験等結果 ・(2)ワーキング・グループ報告、自己評価	○各項目の取組、方策をほぼ順調に実行し、教職員はどの項目も95.5%以上が肯定的評価であった。 ・「授業におけるICT及びBYODの活用」や「適切な学習評価とその結果を生徒・保護者に関して通知・説明している」等のアンケート項目は、中間評価に比べて肯定的意見が増加している。 ・①(1)の「身に付ける資質能力を明確に示して授業を行う」は生徒アンケートと30%の開きがあったが、他の方策は生徒、保護者の評価も良好であった。 ・④(2)を計画どおり実施し、教材の検討や外部課外実施など、具体的な取組につなげることができた。	B	○新課程での観点別評価を全学年で行ったが、評価方法や評価規準の検証を行い、さらなる改善や工夫に取り組んで行く必要がある。 ○文章読解力の向上に加え、主体性や表現力を伸長する取組が必要である。また、授業において、他者と意見交換をしながら、自己の考えを広げ深めていく取組が必要である。 ○これまでの共通テスト情報Ⅰの取組を検証し、生徒の学習を支える体制づくりの改善が必要である。
2	①5分前行動の推進を図る。 ②より良い学校生活について主体的に考える取り組みを行う。 ③多様性を認め合い。他者を思いやる寛容な態度を育成する。	①(1)5分前には登校して着席が完了するよう、教職員全員での指導を徹底する。 ①(2)チャイム席の指導を徹底する。 ②(1)あいさつ運動を実施する。 ②(2)自らの生活をより良くデザインすることが可能となるような様々なルールづくりに主体的に取り組ませる。 ③(1)ネットモラル講演会(1年生・5月)、いじめ防止の全校一斉LHR(7月)を実施する。	・遅刻者数の集計 ・生徒アンケート ・生指・保護者アンケート ・講演会、LHRの実施と成果物	○落ち着いた学校生活を送れるように生徒指導に取り組んだが、引き続き細かい指導を必要とする生徒が見られる。 ・①について、8時25分間隙に登校する生徒が減少し、全体的に登校時間が早まった。 ・②(2)について、生徒や保護者から頭髮、服装の指導には見直しを求める声もある。 ・③に関連する交通安全教室やいじめ防止LHR、講演会実施の評価は良好で肯定的意見が多かった。	B	○今年度新たに取組んだ5分前行動に成果が得られたので、職員の共通理解のもと時間を守る指導に、重点的に取り組む必要がある。 ○校内でのスマホの使用や頭髮についてのルールづくりに主体的に取り組めるよう支援する必要がある。 ○画像、動画の撮影やSNSの使用が発端となるトラブルが増え始めているので、指導を行う必要がある。
3	①地域、保護者への情報提供を積極的に行い、連携を強化する。 ②教育相談体制、個に応じた指導の充実を図る。 ③業務の削減と整理に組織的に取り組み、教職員各自の研修の機会を確保する。	①(1)学習評価、進路情報、学校周囲の危険箇所など、理解や協力、連携が必要な内容について、Classiを用いて保護者に積極的に通知する。 ②(1)スクールカウンセラー(SC)の利用推進について、生徒・保護者に毎月を目標に定期的に通知する。 ②(2)職員対象のTICや特別支援教育の研修会を行う。 ③(1)業務の平準化等の整理を行い、20:00までの全館消灯を100日以上達成する。 ③(2)「1人1講座以上受講」を目標に取り組む。	・Classiによる情報発信 ・生徒・保護者アンケート ・生徒・保護者アンケート ・SC利用状況 ・TIC研修会 ・時間外勤務、日直日誌 ・長時間勤務者への面接 ・ストレスチェック結果 ・研修履歴記録	○保護者が学校行事に参加、協力する機会が増え、連携が深められた。 ・①保護者は、Classiを使った成績や種々の通知等、多様な情報提供を求めている。 ○個に応じた指導態勢の整備が進んだ。 ・②(1)通知等により周知が進み、SCに面談しやすいう雰囲気醸成されている。 ・特別支援教育においては、委員会の開催や個別の指導計画作成、情報共有が定着し、体制が強化できた。 ○教育活動がコロナ前に戻り、中間評価から引き続き業務多忙化の傾向にある。 ・③(1)20:00までの消灯は、1月末現在48日(R5は73日、R6前期で16日)にとどまっている。	B	○紙媒体の通知や定期試験等の個人成績のClassiによる提供について検討する。 ○授業公開、小中高連携は好評であり、今後も無理のない範囲で継続し連携を深める工夫を行う。 ○コロナ禍以前の行事や内容に単に戻すのではなく、縮小・削減した行事や内容を検証し、新しい行事づくりに取り組む。

学校関係者評価	
実施日 (令和7年2月28日)	
評価	意見・要望等
4	・アンケート結果の良いところは伸ばしながら、課題解決には真摯に取り組んでいて欲しいです。知徳体、どこかに偏っているわけでもなく、調和のとれた生徒、先生が多い印象です。 ・アンケートの結果をみると、教職員・生徒・保護者ともに肯定的な評価をしている割合が高いため、全体として甲府昭和高校の教育活動が着実な成果を上げていると思いました。ただ、単元や授業の目標、人権や多様性を尊重する教育などは、教職員と生徒の受け止め方に差が見られるので、伝え方や内容についての工夫や研究が必要かと思いました。 ・家庭科クラブの研修会や授業で防災講座をさせていただき、先生や生徒がメモをとりながら一所懸命に聞いてくださったことに感激しました。このような「聞く姿勢」は、先生方の教え方も丁寧なのだろうな、と思います。どうしても学習面での評価が先に立つかとも思いますが、こうした諸行事でも皆さんが一生懸命に取り組まれていることは、学校の素晴らしいさであると思います。
3	・「5分前遅刻の発展的解消」という決断を経て、試行錯誤された一年だったと思います。結果的に全体的な登校時間が早まったというのはプラスの側面と思います。一方で、遅刻層の固定化という点は生徒個人の属性に関わる部分であり、全体的な制度設計や運用はそのままにしつつ、各個人の状況に合わせてアプローチしていくという方策が採りうるものと感じました。 ・自分本位の権利ばかりを主張するのではなく、甲府昭和高校に関係する全ての人たちがお互い認め合える関係を築きながら、成長できる場を目指してほしい。 ・心の教育については、とても良い環境、時間を提供していると感じます。
4	・地域との連携は引き続き円滑に行われているのと感じます。今後も地域から信頼される魅力のある学校を目指してほしいと考えます。 ・第3回学校評議員会で話題に出た制服(LGBTQ)に関する議論は非常に悩ましく、結論が出にくい問題と考えます。ただ、当事者からすると「学校が悩んでいる」という姿が見えず、「何もしてくれていない」という気持ちを持つことがありません。すぐに結論は出せなくても、(難しい側面もありますが)「学校が自分のことを考えてくれている」ということが伝わる場面があると望ましいと感じました。 ・学校行事については、コロナ前の状況に戻ることににより生徒間の交流が増えたことは望ましいと感じます。一方で、それにより教職員の負担が再度増えつつあるという点は難しい問題であり、単純にコロナ前に戻すだけでなく、新しい形を探っていく必要もあるように感じました。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。